

9月号 No.155

社協だより

平成30年9月1日発行
社会福祉法人 三宅島社会福祉協議会
(東京都三宅島三宅村坪田 3053)

TEL 04994-8-5888 (代表)

FAX 04994-8-5892

I P 5-3155

三宅島社協法人化50周年記念式典

三宅島社会福祉協議会は、昭和34年、島しょ地区では八丈島に次ぎ島の福祉の充実を目指し発足されました。昭和43年(1968年)には法人化され、島民の皆様をはじめとし、島内外の関係機関の皆様を支えられ、本年10月21日を持ちまして法人化50周年を迎えます。

50周年を迎えるにあたり、9月22日(土)に行われる「第16回福祉まつり」と共に、法人化50周年記念式典を開催します。

式典では、東洋大学教授の加山弾氏による記念講演「住み慣れた地域で支え合う意義と方法」(仮題)を行います。皆様のご来場をお待ちしております。



50年前の法人化
記念式典の様子

法人化50周年記念式典

日時 : 平成30年9月22日(土) 13:00 ~

会場 : 三宅村コミュニティーセンター

講師 : 加山 弾 氏 (東洋大学教授) 13:30 ~



加山 弾 氏プロフィール

関西学院大学大学院卒業後、2006年より東洋大学で教鞭をとる。

日本社会事業大学、明治大学、東洋英和女学院大学(大学院)などで非常勤講師を務める。

2014年~2017年 日本地域福祉学会事務局長を務める。

2014年~2016年 NHK ラジオ「社会福祉セミナー」に講師として出演。

専門は「地域福祉論」「コミュニティワーク論」

特に地域における社会的孤立について、コミュニティワークでどのように解決できるか等、研究中。

「第16回福祉まつり」は、9月22日(土)10時開場です。

当日プログラム等は、本紙の折り込みをご覧ください!

夏祭だよ！会食会！

今回の会食会は夏のイベントとして「夏祭り」を開催します。皆さんお誘いあわせの上、ご予約下さい。ご予約のない方は、会場への入場ができませんのでご了承ください。

送迎の準備等がございますので、
予約は 9月6日(木) までに
三宅島社協まで電話予約をお願いします！

- ・ 会場 ココポート2階
- ・ 時間 11:00 ~ 14:00
- ・ 参加料 500 円

- ・ 申し込み先 三宅島社協(石塚)
(☎8 - 5888)

内容

焼きそば、たこ焼き、あんず飴
フランクフルト、ソースせんべい
射的、金魚すくい



「夏の体験ボランティア in 三宅島 2018」が終了しました

「夏の体験ボランティア in 三宅島 2018」が終了しました。活動先関係機関の皆様、ご協力ありがとうございました。

- 【活動協力先】 あじさいの里、三宅島商工会、三宅島観光協会、みやげ保育園、アカコッコ館、地域活動支援センター「いぶき」
- 【実施期間】 7月23日～8月26日
- 【参加者】 島内の一般4名・中学生1名
- 【活動総日数】 10日

ボランティア活動を通して三宅島の福祉や地域社会への関心が高まり、新たな出会いや気づきの中で今後もボランティア活動を楽しんでいただけたらと思います。参加者の皆さま、ありがとうございました。

寄付金のお知らせ

7月28日～8月29日までの間に下記の方からご寄付いただきましたのでご報告いたします。ご厚志誠にありがとうございます。
福祉振興のため、大切に使用させていただきます。

- ・ 鎌川政直様より 亡母：京子様 の香料より 社会福祉協議会の運営のため。
- ・ 長谷川浩様より 亡父：貞一様 の香料より 社会福祉協議会の運営のため。

Twitter 更新しています！



みなさんフォローお願いします！

アカウント→ @mjshakyo

三宅島社会福祉協議会



社協のホームページも公開しています！
是非ご覧ください！

～支え合う福祉の輪～「かめいあ」

作る・食べる・楽しむ
《男性のための料理教室》参加者募集！！

島内のシルバー世代の男性を対象に健康・介護予防等の増進、地域交流などを目的とした《男の料理教室》を開催します。

【開催日時】 9月28日(金) 10:00～12:30 料理「炊き込みご飯」
【場所】 三宅村社会福祉会館内(旧坪田保育園)
【内容】 調理実習と昼食会、健康・栄養講座や介護予防講座など
【対象者】 島内在住のシルバー世代の男性の方
【申込期間】 9月3日(月)から9月14日(金)まで先着順
【募集人数】 10名 参加費：500円
【申込先】 社協 8-5888



今月のボランティア募集

【地区サロンボランティア】

三宅島内では、認知症・転倒防止のためのサロンが各地区で開催されております。サロンでは、近くに暮らす住民と福祉健康関係機関などとの交流活動を行っています。サロンでは、会を支えるボランティアの募集も随時行っております。どなたでもご参加できますので、見学や活動内容の詳細を確認したい方は、各サロンまでお問い合わせください。

ボランティア活動をする方は、事前にボランティア活動中における事故やケガなどを補償するボランティア保険への加入をお勧めします。島内でボランティア活動を希望している方、活動する方に対し、社協ではボランティア保険料の一部助成を行っております。(登録制) また、ボランティアを必要とする個人、団体などからの相談・受付をしております。ボランティア活動団体への助成金申請についてもご相談下さい。

☎8-5888 Eメール mjshakyo@jeans.ocn.ne.jp

【社協高齢者ふれあい会食会ボランティア】募集！

日時：9月15日(土) 9:30～14:30
場所：ココポート
活動内容：利用者サポートなど
昼食代：500円
×切日：9月6日(木) 申込先：8-5888

【認知症・転倒予防のための木曜サロン】

日時：毎週木曜日 9:30～13:30
場所：神着老人福祉会館
問合せ先：めぐりケアセンター
☎ 090-2655-1529 (前田)

【認知症・転倒予防のための阿古サロン】

日時：毎月第1・3火曜日 9:30～11:45
場所：阿古福祉会館(旧阿古保育園)
問合せ先：包括支援センター ☎ 5-1832

【認知症・転倒予防のための伊豆サロン】

日時：毎月第2・4水曜日 10:00～13:15
場所：伊豆老人福祉会館
問合せ先：包括支援センター ☎ 5-1832

職員紹介

「海を愛して、島を巡り」

東京都足立区生まれの山田京子です。20代の頃にスキューバダイビングをしに三宅島へ初めて来ました。夏は伊豆の海、冬は沖縄の島々へ。海外を含め、色々な海に潜りに行っていました。三宅島は噴火するし変な島だなーと思っていたのに嫁に来てしまった！もっとおしゃれで、綺麗なビーチのある島、冬寒くない島で暮らしたかったと後悔したが、子供3人の育児に追われ、あっという間に30年経ちます。

2000年の噴火避難より帰島して訪問介護ヘルパーとして少しずつ何とか皆様のお役に立てるよう努力しております。体力仕事しかできない私ですが、今後もよろしくお願ひいたします。



山田京子

信託とは、財産を持っている委託者が信頼できる受託者に対して自分の財産を移転し、受益者のために財産管理をしてもらう制度です。

信託制度は財産運用の手段という専門性が高い印象がありますが、近年では障害を持つ子へ財産を残すためや高齢者の認知症に備えて活用する福祉型信託の事例も増えています。また、家族などの身内で信託できることもあって「家族信託」と呼ばれてもいます。

・信託法 2 条 1 項

「信託は、信託契約、遺言、自己信託の方法のいずれかにより、特定の者が一定の目的に従い財産の管理又は処分及びその他の当該目的の達成のために必要な行為をすべきものとするをいう」



信託制度の福祉的メリットとしては、一定の目的のもと財産の管理を行い、受益者へ長期にわたって利益を承継させる事が出来る点や、委託者が自己破産しても債権者は信託財産へ強制執行が行われない点がメリットとして挙げられます。加えて福祉的信託では被相続人が家族や親族に遺産の管理を託すため高額な報酬が発生しにくく誰にでも気軽に利用しやすいという特徴があります。一方で、個人の多様なニーズに対応したオーダーメイド的な性質があるため委託者一人一人に合う信託内容の設計をする必要があります。

財産管理だけでなく将来の財産承継を視野に入れるなど委託者の様々な思いや多様な受益者像、家族関係や背景事情等を総合的に考慮して適切な信託の形を作り上げることで安心できる福祉型信託を利用する事が出来ます。

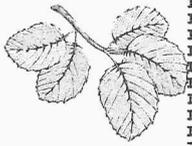
福祉型信託は事例が少なく判例も示されていないため、利用される際は公証人や弁護士等法律の専門家との打ち合わせの上ご活用ください！また、福祉サービスの併用については社協福祉サービス利用援助事業担当（Tel.8-5883）までご相談ください！

地域福祉権利擁護事業 生活支援員募集

主な業務	福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理の支援、手続き支援など
勤務時間	月～金のうち2時間ほど（登録型勤務、曜日や活動時間は応相談）
資格要件	普通自動車免許 高齢者や障がい者に対する福祉活動に理解と熱意を有し、心身共に健康な方
待遇	時給1,000円（交通費別途支給）
問合せ	三宅島社協福祉サービス利用援助事業担当（8-5883）

書類の手続きや日常的な金銭管理について不安なことなどございましたら、

三宅島社協（8-5883）までご相談ください！



地域の掲示板



“風のカフェ”

(認知症等介護者のためのカフェ)



『風のカフェ』では、ご自宅で介護に向き合われている方や、これまで介護をご経験された方々のお越しをお待ちしています。また、介護を受けられているご家族の方も、一緒にご参加いただけます。

どうぞ一緒に楽しい時間を過ごしましょう。また、『風のカフェ』では一緒に運営していただけるボランティアを募集しています。コーヒーを淹れる、おしゃべりをする、ゲームを一緒にする、どんな形でも構いませんので、是非一緒にいただければと思います。



次回開催：9月8日(土) 9:00 ~ 11:30 (毎月1回：土曜日)

次々回は10月6日(土)の開設を予定しています。

開設日は、村役場にご協力いただきIP告知端末でもご案内頂いております。そちらもご覧ください。

問い合わせ：5-1470 (みやけしま風の家) 5-0904 (三宅村役場福祉健康課 福祉係)

坪田地区ビーチクリーンクラブ からのお知らせ



～ 釜方海岸ビーチクリーンのご案内 ～

日 時：9月29日(土)

午前8時30分から1時間程度

集 合：「釜方海岸」

※雨天の場合は中止。

※軍手、ゴミ袋はクラブで用意します。



訪問介護ヘルパー募集中！

- 【主な業務】 清掃・調理・入浴介助等訪問支援
- 【勤務時間】 8時30分～17時30分までの間(曜日時間は応相談)
- 【資格要件】 ホームヘルパー2級以上、普通自免許
- 【待 遇】 時給1,250円
- 【問合せ先】 三宅島社会福祉協議会(8-5888)
採用担当 齊 藤



マイ・ストーリー

あなただけの物語、聞かせてください

第11回
林田綾子さん
の物語

あの夏、長崎のこと。

この夏、長崎のこと。



阿古在住の林田さん

この回のマイ・ストーリーに目を背ける方もいらっしゃると思います。でも、できれば目を背けないでください。あの夏、長崎の12歳の少女が見た景色と一緒に見てください。恐怖と痛みと辛さという地獄を見た景色と一緒に見てください。どうか、これから先、こんな景色を子どもたちに見せることが無いように、心にこの景色と一緒に刻んでください。

昭和8年長崎県長崎市で生まれた林田綾子さん84歳。ひとりっ子だったので父や母、親戚からもとても可愛がられて、大切に大切に育てられた。

12歳の夏が来た。あの夏はとても暑かった。朝から空襲警報が鳴り10時過ぎに警報が解除されたので学校の宿題で、飛行機の燃料にするための松ヤニを採取しなければならず、友達の家で友達を迎えに行った。友達の小さな弟がはしゃいで迎えてくれた。ふたりで縁側に座り、なんてことない話をして、笑いあった。飛行機の音がしたので空を見上げた。「日本の飛行機かな。アメリカの飛行機かな。」太陽がとてもまぶしかった…

昭和20年8月9日午前11時02分、長崎県長崎市に原子爆弾が投下された。林田さんの住む町は爆心地から2キロ程度しか離れていなかった。太陽よりまぶしい何かが光った。太陽の光だったのか、原子爆弾の光だったのかわからない。思わず目を閉じた。目を開けたら、目に映るものが変わっていた。右のほほに違和感を感じた。友達の家で爆弾が落ちたのだと思い、一緒にいた友達の弟の手を取り納屋に隠れた。防空壕から友達の家族が必死で呼んでいる声がした。「綾子ちゃん、家の人を呼んでくるからここで待ってろ」と言われたが、じっとしてられなかった。じっとしているのが怖かった。とにかく走った。町は地獄だった。いろいろなものの焼ける匂いと、血の匂いと、自分に助けを求め死にゆく人の声、12歳の林田さんは町を駆け抜けた。「綾子！」父の声だった。父の顔を見たら、我に返った。安心したら、自分の右側のほほに痛みを感じた。爆風で右の顔半分がやけただれて、薄皮がむけていた。父が私を抱きしめ、自分をおんぶして町の防空壕まで走った。父の背中にしがみついた。町の防空壕で避難していると、薄暗い中、赤ちゃんを抱いているおじさんがいた。赤ちゃんがいるんだと思って見ていた。よく見てみると、おじさんは赤ちゃんなんか連れていなかった。自分の内臓を両手いっぱい抱えていた。原爆投下の際に負傷したのだろう。間もなくおじさんは亡くなった。その時の防空壕の血なまぐさい匂いを忘れられないという。そのあと、家族で母の実家のある島原へ行った。多くの人が行列を作り長崎市から離れた。長崎市から離れても、あの夏の長崎のことを決して忘れなかった。

私は林田さんと話すのが大好きです。他愛もない話をふたりでゲラゲラ笑いながら話す時間が大好きです。普段は可愛らしく、ユーモラスで本当に素敵な女性です。今回の取材も快く受けて頂き本当に感謝しています。今までたくさん色々な話をしてきたけれど、この話を聞くのは初めてでした。「夏が来ると、やっぱり思い出すのね。」と林田さんは優しく話してくれました。

あの夏、12歳だった林田さんは、この夏、8月15日にあの場所、長崎へ行った。あの場所へ戻る林田さんの願いは「この夏の長崎もどうか平和で…。できれば、どんな場所もどうか平和で…。」だ。綾子さん、貴重な経験をお話してくれてありがとうございました。私、この景色を絶対忘れません。どうか、平和で…。